

令和の子どもたち

を応援するピアノ教材



- ✓ 練習しない、練習する時間がない
- ✓ 楽譜が読めるようにならない
- ✓ おうちの方が忙しく、協力が難しい
- ✓ レッスンに嫌々来る
- ✓ 知ってる曲しか弾きたがらない
- ✓ テキストがなかなか進まない
- ✓ 歌ってみるとリズムや音程がとれない

今のお子さんはとにかく忙しい！ でもピアノはできるだけ続けて、音楽が好きな子に育ってほしい！
そんなお考えの先生に、ぜひお試しください教材です。

レッスンが思うように進まない生徒さんも、知っている曲を使って少しずつ進むので「できた!」を積み上げてピアノを弾く喜びを実感できます。また、誰もが知っている曲ばかりなので、聴いているみんなに喜んでもらい、練習のモチベーションにもつながります。

小さなお子様からシニアの方まで、広くお使いください。



はじめての ピアノチャレ



ひとつひとつ丁寧に

曲を段階的に練習して、無理なくマスターする！

ひとりでも
すいすい
ひけそう！



白抜き文字の音名と指番号で迷わず弾ける！

さいしよの音とその曲で使う音がひと目でわかる「けんぱん図」つき！

イメージがわく
かわいいイラスト

みんなに
きいて
ほしいな！



たくさん弾いて 経験する

一人でも弾き始められるように右手と左手でマークを変えて「さいしよのおと」を提示

ポイントになるテクニックを意識できるように示しています

同じ音が続く時などは音名の文字をグレーにしています

手の大きさや弾きにくさなど個人差を考えた指づかい

ピアノチャレ レパートリー

ピアチャレ 7つのこだわりポイント



子どもがひとりで楽しく練習ができる

1

この「ひとりで」がポイントです！ 練習が嫌になってしまうのは、わからないこと、うまくいかない部分があるからなのでは？ 『ピアチャレ』では、図やアイコンを使って、おうちの方や先生に質問できない場面でも、自分の力で練習できるよう工夫しています。



文字が書かれた楽譜を「見ながら弾く」

2

文字を見て弾くことへの抵抗はあると思います。でも、読譜が苦手な子どもにとって、「わからないもの」である楽譜はなかなか見る気が起きません。文字を読みながらでも「楽譜を見て弾く」訓練につなげていくことは、非常に重要だと考えています。



小学校の音楽の授業との連携

3

わらべうたや民謡を多く使用していますが、そのリズムや歌詞は地域差や出版譜などによってさまざま。そこで、『ピアチャレ』では教科書の記譜をベースにしなが、より子どもたちにとってなじみがあり、弾きやすい方法を検討し、採用しています。



無理のない指づかい

4

子どもが迷いそうなところには指番号をふり、ポジション移動は○でわかりやすくしています。『レパートリー』では広い音域や指のくぐりなどにも挑戦しますが、教育的に望みたい指づかいと、子どもにとって楽な方法を合わせて考えながら提示しました。場合により、2パターンの指番号を記載しています。



あえての“簡単すぎる”アレンジ

5

ひとりで最後まで止まらずに「弾けた！」と手ごたえを感じられるよう、あえて簡単すぎるアレンジにしています。メロディーを歌うように弾く、伴奏のリズムパターンを変える、音を増やすなど、自由に創意工夫できる余地を残しています。



自分もみんなも嬉しい選曲

6

幼児さんからお年寄りまで、広い世代が楽しめる合計約60曲を選びました。教室で披露する、おじいちゃんおばあちゃんに聴いてもらうなど、シチュエーションに合わせて、相手の喜ぶ顔を想像しながら練習に励むことができます。



大人も癒されるかわいいイラスト

7

シリーズ全体を通して、絵本作家のたかしまてつをさんをお願いしています。日々の保育園や学童に疲れた子どもたちが、家事や仕事を頑張る大人が、楽譜を開いた時にホッと癒されるようなかわいらしいイラストが散りばめられています。

！ 喜びの声が届いています！

チューリップやカエルの合唱が弾けるようになったから、小学校に入ったらクラスのみんなに聞かせたい！（年長）

「やってみたい！」という興味とやる気を引き出してくれるテキスト
何人もの生徒が喜んで取り組んでいます（先生）

これまで何度声をかけても練習しなかった子が、自分から楽譜を広げて練習しています（保護者）

Q&Aでわかる ピアチャレ



何歳ころから使い始められますか？

ピアチャレの特徴のひとつに、「どれみのかな振り」があります。その効果が見込めるのはひらがなが読めるようになる頃(4歳前後)ですが、それより小さなお子様でも楽譜やイラストを眺めながら一緒に歌を歌ったり、リズム打ちをするなどをして、楽譜に親しむことに活用していただければと思います。

わらべうたでは、ぜひ手遊びも一緒に教えて後々ピアノを弾くための準備段階として、指の運動をさせてあげましょう。



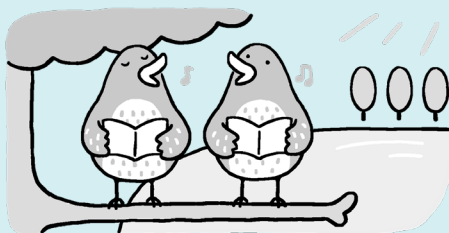
音符にどれみがふってあることに抵抗があります…自分で読めるようになるのでしょうか？

小学校低学年で使われている音楽の教科書、最近ご覧になりましたか？

ピアチャレと同じように、音符の中にひらがなでどれみが書かれているのです！

それにヒントを得て、読譜に時間がかかってしまう子や、楽譜を読むことが苦手な子でも楽しんで取り組めるよう、文字を音符の中に書き入れました。読譜に時間がかかり、ピアノへの気持ちが後ろ向きになるよりは、たくさん曲を弾くことで「弾き慣れる」ことを優先しています。

慣れてきたら文字を塗りつぶして弾いてみたり、「どれみ」の無い楽譜も併用して読譜の練習もしていけば、時間はかかるかもしれませんが、年齢と理解が追いついた時に、きっと自分の力で読めるようになります。



『はじめてのピアチャレ』と『レパートリー』は同時に使えますか？ また、併用すると効果的な教材はありますか？

『レパートリー』は、『はじめてのピアチャレ①②③』と同じ狙いをもちながら、「さいしょチャレンジ」をカットして全ての曲が両手で演奏できる楽譜です。まずは『はじめてのピアチャレ①』で楽譜の見方や指の使い方になじみ、生徒さんの理解度や意欲を見ながら併用してください。

発表会やイベントで、やりたい曲からチャレンジするもよし、普段お使いの教本にプラスしながらたくさん弾く経験を積ませてあげるのも良いですね。

『ピアチャレ』シリーズ4冊と一緒にオススメしたい教材もご案内します。

【音感】『プレ こどものスケール・アルペジオ』 根津栄子 著



調を感じながら歌うことから始まり、全調を体験します。調性が偏りがちな「ピアチャレ」を補強してくれると共に、進んでいくと5本指で弾けるスケールやアルペジオも経験するので、テクニック強化にもピッタリです。

【読譜】『うたとピアノの絵本(1)みぎて』 呉 曉 著



音域や難易度は『はじめてのピアチャレ』と同程度ですが、こちらにはオリジナル曲が多く書かれているので、音符を読む練習になります。『はじめてのピアチャレ①』から併用することで、文字のない音符にも抵抗がなくなっていくます。

ピアノを始めたら、まずは最初に
ピアノを弾く喜びを味わってほしい。
そのために作ったのがピアチャレです。
どんどん進む？ 好きな曲ばかり弾いている？
それでもいいのです。
たくさん弾けば、着実に力がつきます。
まずは、ピアチャレ！

山本美芽